

繪本
豐臣勲功記
四編
壹

遠13³⁹
2209
31



特 13 遠八
 2209
 31

藝州廣島城主
 毛利右馬頭
 大江輝元
 之像



櫻澤堂山編輯
 一勇齋國芳畫

元里必肉

繪本豐臣勲功記四篇

浪華書肆

群玉堂
 文海堂

小早川左衛門佐
大江隆景之像



吉川駿河守
大江元春之像



書目記四續口

備前國岡山之城主

浮田和泉守直家之像



羽柴
筑前守
秀吉
之醉像



尾子孫四郎勝久之像



尼子勝久之
臣山中鹿之
助幸盛之像



和州
志貴山之城主
松永彈正大弼
久秀之像



繪本豊臣勲功記四編壹之卷

目録

浅井朝倉逐段陥本下謀

属大實檢賊

蒙勅織田朝倉浅井和睦

属謀降畿野

秀吉救鎌及城大破門徒

属信長出馬

毛受庄助棄逃猪家了標

属扑全戦死

繪本豊臣勲功記四編卷之壹

江戸 櫻澤堂山 編輯

浅井朝倉追殿臨木下謀属大實揆敵

一朝雪降响の青松三日の老を向枯木行侍の花を撃ぐ

遠小本下が計る所の實小次成の瑞雪をりて春松をりて忽地老

しめ枯木をりて華さしむる所作を得り。當天ハ十月十八日既

小秀吉が初むる所の極妙奇代の密計を信長つゞき小所しめし

驗小実小女双の神策なり。方儀使率們が困苦をりて款を欺死

勾引。自軍の利得をなさしむる緯災失も隙時小用をまは却て壁便

とるものゆるりと屢感嘆なり。多ひ昇時小諸將を召集め形般小倣

事もろく極寒の時節小朝をり。對陣する緯益をも覺(を寒)極小



悔之屈曲小頼之諸軍は固窮妙くねば這般に相帰軍を
つまび明天も早々陣拂はし退去をせし準備せよと今平ら
さまさるる小頼諸將のくうち悔き諸卒の疲労をながさるる
河當理小頼海軍も今河帰軍にさるる固窮を歎小視徹さ
ま淺井朝倉一同小退殿せんは必定なり増て味方の疲武者防
戦をこも叶ふまじ然るまは若の河威光も缺諸士の武功も茂
をべ一方僅姑くは响を致合せ河賢意よ死小思ふされ志るる
と異口同聲奉まは信長所さま氣色を正して宣ひ出る予
國へ發軍する偏小天下の爲小く聊私の事ならん軍小隊
進退を事官しく响小順ふまは私の社辱をかり天下に
大事を忘るる予本心小あらざるなり今這般を退くは事弱の布

好不似とまごも公儀のこめ小軀を曲て備利を量る不なり最も
退路の大切まごも厭はまご諸士への忠勇の信をべし。號まは
此事あり。聽する响の心を敗まん落ひ論改小及ぶるるを
準備をせし小と命令嚴しりるまは諸將への再發の諫言を。膜
津らと河奉まは。自己の陣而小退を諸卒へ遠義を徇示
一。考一退を許準備をす。然かど小淺井朝倉の比敵の山と
小居陣して日々衆徒への弛走をうけ。快子虎子の小卒まは酒
肉小飽満るる由。御寒氣の疲労も知るる織田の健卒が麓
小ありて。寒苦氷悩をる奉動を意地よ死こと小かりひ今視上困
苦一退をを機會を退撃せんとし松腰棧舌鼓を鳴らし
窺ひ互らる小廿八日の申過る頃織田の陣中鼓噪を執行す

豊臣日記 四編 卷之二



山門の衆徒
 浅井朝倉の
 諸軍士と
 饗應を



容あつて由一浅井家情小同者せりて遠漢院と祈しむる小信長
明日退去法由して諸勢おのく準備とるまは新噪動小及び
ぬと志响こそ来るま先然く六因名們と遂撃せんと倉卒小諸
隊へ揮令と傳へ退撃とて死準備と做させ浅井朝倉は西軍勢
之功せんと統攸びる糧など腹便々と喫しりて益益の調度馬装
足踏寄り統控接り方儀や逢いと候蕙り信長と夜の商
盡ころ再び諸士を襲めらま門々準備整ひやと訊ねるふふ
諸士一同俱備つらまると言仕を信長莞爾とうち笑玉ひ然ら
ば密謀と謂所せん今宵之更計小あり六自軍の勇武者と一緒
小々炬松照させ連綿と退く態小りてなして二井寺色を
退去させし諸將おのく隊下の老黨運急の士を誘出陣と

因退一容小視せ蕙殿屋と背面小埋伏せし款を權へ下果せば
厥これ番号と謀とてそと一時小撃て鼓形般くゆふせぬ
起し首尾よく敵と追崩をもも安小山上へ退登るべくして原
の陣とを相ちりまきりて指揮小随ふべしと方術逸つらり小
余とてさきりり小しり諸將候報て奉所り君の謀畧形こそあら
ぬと舌と振て忍感とをの折指揮小執る一個統率取致率も
たれりけり既刻限小際もたけは打棄準備つらまらんと再
陣小を降り自場と拮捨し強弱の致率と領ち旁れ軍一本
陣へ遣り款を小こをを用ひさせ遣急のそを誘出し益釋つら
く以甲冑と若固め大軍陣の後背小伏置大將分の陣小残り
て并と焼せ人ある態小りてなさせ次走く小燎と減し番号遣し

豊臣日記 編卷之三十一



と窺ひし。信長も所装束調ひ、新水陣より木下を残り、退せし
是、新旗本、益上と從へ、世満、當大、情、地、宇、佐、山と出玉ひ
之井寺へ漸入あり。合圖、次第、小段、殿、人、と宇、佐、山の方を望み
せ、多、少、木、下、秀、吉、へ、暗、号、を、通、さ、る、後、を、禰、也、本、陣、小、經、り、て、
既、小、五、更、法、待、来、小、々、ま、バ、那、條、の、固、軍、小、指、揮、を、傳、へ、臺、へ、入、り、
松、明、と、之、四、焼、か、と、振、り、を、廿、八、日、の、月、に、見、る、を、照、し、て、二、三、
列、を、大、旗、小、旗、と、先、小、建、大、將、信、長、方、儀、宇、佐、山、と、退、去、の、時、
せ、り、て、列、と、交、系、さ、と、退、く。孫、吉、舟、八、宇、佐、山、の、頂、上、小、崎、登、り、敵、
を、燒、く、と、心、懸、り、合、号、を、な、し、と、侍、蒐、り、船、倉、義、景、津、井、長、政、
と、復、く、と、の、や、織、田、堪、比、退、陣、を、な、す。逐、擊、せ、れ、ん、事、を、怖、し、信、長、
敵、を、引、退、く、ら、ん、小、速、小、退、殿、と、日、來、の、背、憤、を、な、す、と、火、急、小

指揮を傳ふる。あ、津、井、船、倉、の、兩、軍、勢、こ、も、小、一、山、の、衆、徒、を、如、く、と、
有、余、勢、隊、伍、を、亂、し、我、方、ら、と、敵、衆、を、籠、を、當、て、馳、り、り、試、し、舟、
作、を、容、く、織、田、津、中、を、視、せ、ら、れ、敵、一、人、も、あ、ら、ず、は、返、り、ま、り、小、旗、
號、を、速、く、も、退、去、せ、り、の、は、り、行、方、も、も、道、一、せ、と、傳、へ、り、と、
繼、ぐ、火、把、の、火、を、行、的、の、方、に、據、り、ん、と、馳、り、り、既、小、宇、佐、山、の、南、
麓、を、央、路、過、り、と、覺、し、も、時、分、後、段、々、木、下、秀、吉、時、を、宣、け、
と、暗、号、を、復、烟、を、一、高、く、山、上、小、火、を、集、り、て、放、發、せ、り、禰、也、暗、号、
と、織、田、家、の、諸、軍、士、陣、の、背、方、より、起、り、り、圍、を、つ、り、て、馳、走、り、
推、し、敵、の、横、隙、より、を、突、く、ち、菟、攻、を、な、す、木、下、宇、佐、山、の、八、面、小、
自、將、之、千、有、余、勢、を、分、撥、り、て、置、る、由、一、是、條、の、軍、倫、一、同、小、旗、有、
こ、け、威、を、發、し、る、と、な、り、り、と、墮、雷、を、傳、へ、山、小、旗、傳、へ、洞、に、應、答、水

彌うて夥しく。忽地天地も傾倒し。と怪しむる所へ。つら小ぞ。
浅井の倉に軍を率。魂消ごとく。愕き怖き。備へ敵を猶残り。倉
邊りもあつらひ。隊伍をきて戦へ。と呼ぶ。指揮をきこむ。あ
後を引いて。敵營を急ぐ。隊伍を整え。糧糧を。を織田勢
得たり。と這方郡方より。顯は出久。と屈せ。皆散せんと。號を起
こす。勇士達を。横無縦小斬起。羅を。敵山の麓より。宇佐山
の中間まで。陸續と。連り。浅井朝倉の軍を。七八壇小
絶断。と。虎怒龍憤。と。攻起。一。勢威の活き。こと。一刀半。陰あ
る。と。小。龍力。か。右。横。左。往。一。逃。帰。さん。と。慌。噪。げ。と。う。さ。い
圍。一。路。條。さ。と。あ。ら。と。あ。ら。と。同。士。殿。を。大。方。の。千。信。長。合
圍。の。漸。賢。あ。ら。も。旗。本。の。堀。五。不。余。騎。を。と。井。寺。を。撃。て。出。

善地小純若玉ひ。薨とくと。漸指揮あり。つらも。號を。小。堀。さ。る。勇
士。依。傍。小。系。と。擲。投。と。種。威。小。信。せ。と。捲。く。か。ど。に。西。家。法
敵。士。總。崩。と。なり。浅井長政も。危。ふ。り。し。と。赤。尾。英。濃。も。小。助。け
ら。と。踏。を。覚。め。て。走。り。た。れ。朝。倉。義。業。も。放。り。小。比。叡。の。山。上。へ。逃。返
る。その。余。勢。を。士。八。方。へ。天。將。地。首。と。散。れ。と。こ。も。さ。め。小。屍。體。を。置
る。こと。と。道。海。小。元。波。が。上。小。波。を。を。東。西。小。曉。天。明。り。と。六。木。土。の
黒。白。も。領。り。小。より。漸。く。山。上。へ。逃。退。る。こと。も。常。死。人。員。數。を。知。る。と。
頼。り。信。長。法。下。知。る。と。決。り。と。遠。く。追。登。る。と。捷。威。つ。り。と。又。か。の
陣。下。と。持。固。め。旗。幟。標。と。と。列。ね。最。嚴。小。隊。列。と。ま。き。げ。
軍。威。細。小。十。倍。と。較。し。と。見。入。り。と。信。長。も。宇。佐。山。の。漸。か
陣。小。投。り。と。殿。提。越。級。實。檢。と。と。と。諸。將。一。是。と。徇。る。一。寅。の。刻

豊臣巴日編卷之二

二

より已に割きを金く四時をさるる小津井船倉を士の殿換千
八百有余人織田の駿卒の戦死も七十余人ありと相ん別諸將の
隊小殿換首級をとりて本陣へ持参せしむる實檢首々

- 柴田修理進勝家隊へ殿換敵ハ其員二百十一級
- 池田勝之助信輝隊へ殿換敵ハ其員二百四十二級
- 本下藤吉秀吉隊へ殿換敵ハ其員一百九十五級
- 佐久間右衛門信盛隊へ殿換敵ハ其員一百九十一級
- 丹羽五郎左衛門長秀隊へ殿換敵ハ其員一百八十七級
- 蜂屋三庫領頼隆隊へ殿換敵ハ其員一百八十六級
- 前田又左衛門利家隊へ殿換敵ハ其員一百廿四級
- 佐々内藏助成政隊へ殿換敵ハ其員六十有五級

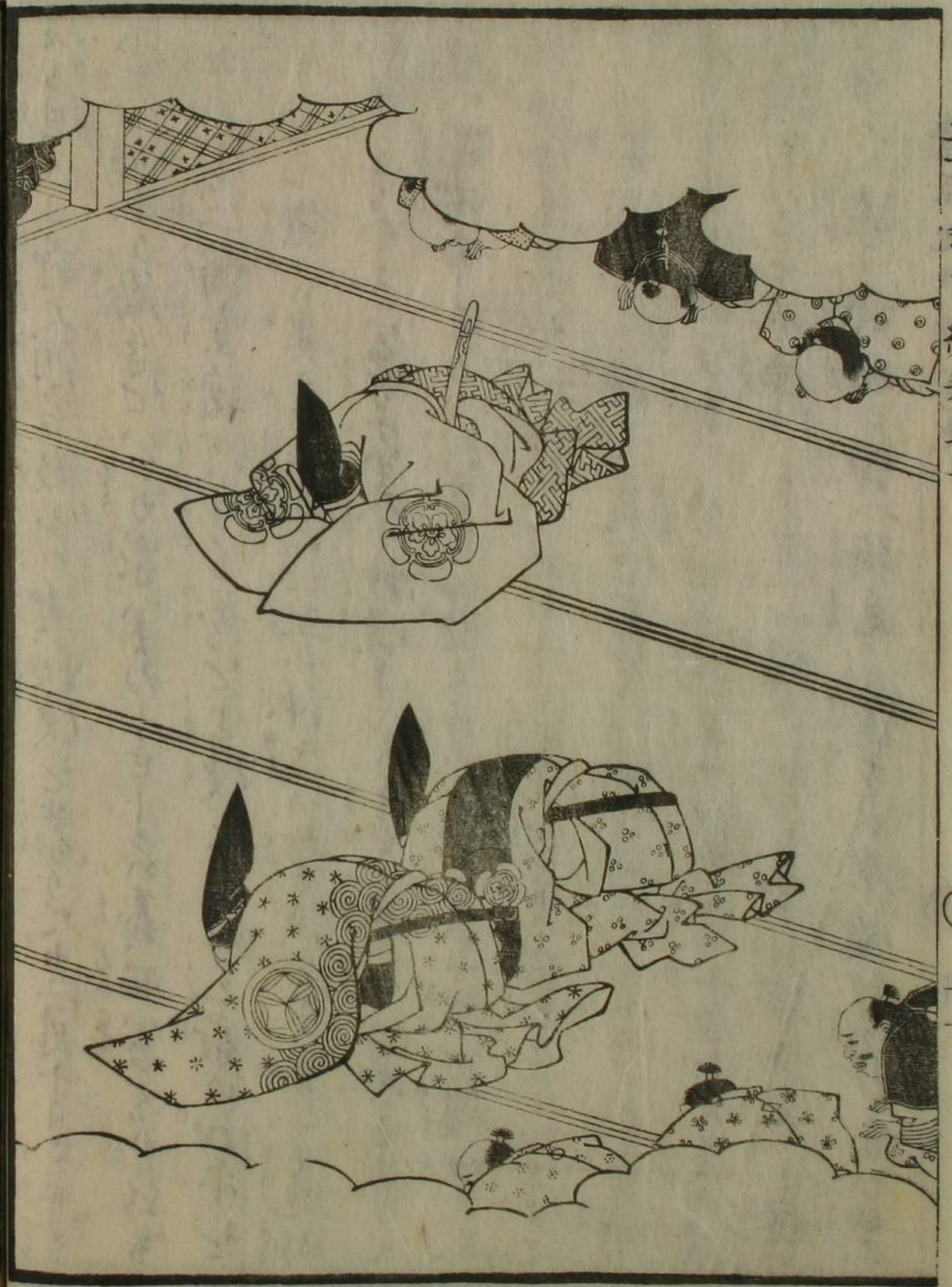
稻葉伊孫守貞通隊へ殿換敵ハ其員七十有八級
 氏家常陸道朴全隊へ殿換敵ハ其員二十有四級
 安藤伊賀守範俊隊へ殿換敵ハ其員二十有一級
 不破河内守時重隊へ殿換敵ハ其員二十有二級
 明智十兵衛光秀隊へ殿換敵ハ其員一百廿七級
 信長一々實檢まじく。諸士の粉骨せし小よりて。本陣坂井依が戦死
 の吊軍小勝利を得たり。渠依も黄泉小ありといひと。心し
 しくおろふらん。予も悦びのこま少の過をと歡喜の氣色をばらむし。
 遠响諸將をめて言はせ。泰らせ。這圖をたづなを攻上つ。淺
 井朝倉歳義ありとも慶小々。稟をべきに候くせきをなへ。と
 別口同言小稟をせし信長もあまふれをら。稍所悪案の体なり

ちやうどく像く。浅井新倉殿山小陣より賸衆徒加力
 くれが容易小仗ことなりごとく。徒小月日と過せしこと。法率の固
 窮大方ならむ第一朝庭への恐あり。是より及むをみぐる小臣
 熟く思慮つらつら小浅井新倉織田と和後な。各帰陣をり
 むら六も損ぜむ世も静まりて。國家の漸為と好まぬをこ
 の義裁の禁中の河沙法ごとく。公方家法漸ありひとを。下さる。首
 尾好整ひ重きを。然ればされ小新倉へ漸滞留あせらる。こ
 漸好まどおがしめす。漸趣言も立ち。義家いと天取けなく。漸奉
 さん。恐おがら公方家の漸内意と奉らむ。小臣内々傳奉家へ
 怖さをやと伺ひ。色は義昭公こそと所し。ゆされ。予も使より。新有とし
 と思ひ達する。所ある。不能こそ重し。出らる。遠事汝小信と云れば

美濃買小概計らひ。双方を帰陣せしめよ。傳奉家へ予くも。別
 使を添んとの。旋意ゆて。上野中務大輔秀政と。新使と。本下と
 同伴せられ。こそ。小内意は。漸書と。齎らむ。傳奉日野大納言。輝
 資綱の。辨へ。當遣らる。秀吉。殊小。新悦。な。直地。小。傳奉。新。館
 小。お。ひ。した。ま。づ。將軍。家の。内書。と。捧。げ。委。し。け。輝。を。藤。吉。郎。と
 言。上。と。と。と。陳。は。む。六。輝。資。綱。の。頭。と。より。公。方。家。と。こ。二。三
 漸。熱。懇。なる。の。な。ら。ず。藤。吉。郎。中。も。諸。司。代。り。し。輝。より。漸。心。寧。く。交
 する。多。ひ。毎。々。語。ら。ひ。漸。中。の。む。六。遠。遣。漸。使。小。来。り。事。漸。軍
 家の。命。と。い。ひ。日。野。殿。甚。と。悦。ま。る。多。ひ。漸。書。と。持。目。せ。し。後
 秀。吉。郎。と。ち。と。は。は。輝。の。思。枝。と。漸。所。あり。秀。吉。奏。園。の。趣。と。首。尾。落
 々。言。は。さ。し。早。め。く。重。き。と。と。勅。諭。せ。り。織。田。淺。井。新。倉。と。和。睦

せしめ帰國へくまふべし。ゆへに小公方家へ所倫旨下し至らしむ。あまふ
 名命を添まつせ。女事江所扱ひあらん。て遠義小乃びの事可
 民の困若諸卒の艱難をよそん。為よの海が万望諸所評議
 のうへ奉圖を遂ぐる。単小作を奉ると謹ぐる。出す日野殿
 俱小聞しめされ。理至極せ。事ありて早速兼引あせられ。直小
 参内ましく。諸々と内結ゆせられ。略て奉圖奉る。小公方けさくも
 正親町院聞し。名をけらし。こ家の和平を誓ふべし。所勅復な
 ころ。道まじり。是小より。懸資の倫旨を奉て。退出あり。再び秀吉
 と呼出さる。物産の名命所ら。秀吉。渾む。忠況。奉り。所帳申
 て。振子の陣小ゆり。ろ。日野殿。小公方家へ。移と。達し。あふ。小
 より。義昭公。所扱ひ。この將軍隊を。所ま。あ。と。井寺へ。打ま。く

乃る。且又日野大納言殿。小の所勅使と。共。なり。十二月十日。こ井寺
 小参向あり。倫旨と。公方家へ。あ。せ。く。義昭公。こ。り。ゆ。も
 乃。あ。を。二階堂。後。河。ち。秀。と。上。使。を。せ。られ。こ。家の。和平。を
 命。出。さ。る。難。く。異。愛。重。す。べ。し。互。小。神。文。の。誓。紙。を。こ。り。合。ひ。首。尾。好
 和平。し。る。小。より。公。方。家。大。小。執。院。ま。し。く。日。と。井。寺。と。所。ま。あり。て
 都へ。還。所。あ。せ。る。る。所。ま。を。和。睦。の。か。う。へ。の。小。軍。と。纏。收。し。て
 帰。國。あ。ま。と。山。上。へ。粟。一。送。ら。ま。る。る。所。小。浅。井。稻。倉。を。小。思。怖。之。
 ま。が。織。田。家。より。陣。を。さ。ひ。これ。あ。る。べ。し。の。報。答。なる。由。へ。信。長。報
 然。と。う。ち。笑。ひ。笑。却。て。幸。ひ。と。あり。本。下。が。謀。畧。令。小。わ。か。ま。る。威。徳
 の。残。ま。び。こ。を。還。陣。さ。し。小。先。を。譲。る。ハ。最。心。地。に。事。あり。たり。と。信。長
 と。あ。り。速。小。諸。將。の。陣。へ。徇。身。し。還。去。の。準備。を。急。が。し。至。ひ。羽。芝



十四日の曉あけ、小志賀おしげ、宇佐山うさやまを引拂ひたひ、船ふね小泊おとまりまで、湖水こすゐを渡わたり、津田ついで、
 志摩しま岸ぎしまで、山岡やまおか、濃のう、志摩しま、館たねへ入いり、霧きり時とき、休息きゅうしせさせ、あ、津つ、
 井朝いあさ倉くら這こを、現まく、翌あした十九日じゅうきゅうにち、坪つら、美山みさん、五ご、村むらの陣ちんを、退ひく、あ、倉くらの
 越こ前ぜんへ、帰かへり、浅井あさいの山やまへ、攻せめ、又また、彈たま、正ただ、信長のぶながの翌あした日にち、磯野いその
 小こ、若わか、あ、丹羽にわ、長秀ながひで、申まを、途みち、小出こいで、迎むかひ、百々もももも、屋や、浦うらへ、請まを、急いそ、せ、種たね、
 餐い、應おう、奉ほう、信長のぶながを、船ふね、も、長秀ながひでと、唱な、と、先まへ、頂たか、一ひと、撥は、強つよ、動うご、の、機はかり、會あひま
 う、の、樞す、強つよ、く、城しろ、を、の、望のぞ、め、丈だけ、の、を、み、ら、せ、坂さか、本もと、を、弛ゆる、め、り、う、る、忠ちゅう、義ぎ
 の、か、と、神かみ、妙たえ、あり、と、所ところ、賞しょう、買か、は、し、く、素す、法ぽう、如ごと、小こ、佐さ、和わ、山さん、の、押お、こ、と、百々もももも
 屋や、浦うら、小こ、残のこ、か、る、遠とほ、小こ、木き、下した、藤ふじ、吉きち、席せき、の、横よこ、山さん、城しろ、法ぽう、將しょう、を、ま、り、照てい、東とう
 して、落お、び、船ふね、般はん、小こ、の、え、ん、と、と、信長のぶなが、あ、ま、を、所ところ、し、呂ろ、新しん、和わ、議ぎ、調てう、ら、う、
 う、の、た、の、ま、な、煩わづら、ふ、緯い、も、あ、じ、意い、真ま、小こ、交か、城しろ、せ、よ、と、命いのち、せ、ら、ま、を、兼かね、り、

秀吉ひでよし、莞わん、尔に、と、う、ち、笑わら、ひ、遠とほ、遭あ、の、和わ、後ご、の、孫まご、薩さつ、を、植う、て、夢ゆめ、う、こと、七しち、
 丈だけ、に、髣ふ、髴ふ、繁はん、と、ま、バ、横よこ、山さん、の、護ご、り、こ、そ、の、う、く、大おほ、切き、小こ、志し、む、さ、る、り、頭かぶ、て
 長なが、政せい、と、う、う、ひ、て、渠みち、勃はつ、然ぜん、と、く、手て、祭まつり、な、ま、づ、小こ、屋や、と、小こ、料りょう、理り、と、ん、
 漸しぜん、意い、寧ねい、く、思おも、ひ、所ところ、帰かへ、國くに、あ、ら、せ、ら、ま、と、實じつ、々々、に、し、て、ま、出で、を、信長のぶなが
 小こ、も、笑わら、こ、を、至いた、ひ、い、う、さ、る、神かみ、文ぶん、も、破やぶ、り、ど、し、汝なんぢ、を、ど、く、計はかり、ふ、へ、と、翌あした
 日にち、諸しよ、軍ぐん、を、繼つ、ぐ、る、ひ、濃のう、列れつ、波な、卓たつ、へ、所ところ、帰かへ、城しろ、あり、り、信長のぶなが、當あた、年とし、の
 諸しよ、不ふ、小こ、於お、く、危あや、急いそ、の、軍ぐん、あり、し、と、も、い、づ、き、も、勝かち、利り、十じゅう、分ぶん、小こ、く、愛あい、智ち、海かい、陣ちん
 あ、ら、せ、ら、ま、越こ、来き、せ、ら、れ、て、来き、る、年とし、の、元もと、毎まい、二に、年ねん、法ぽう、法ぽう、と、い、う、う、ぬ、浩こう、長なが
 剛ごう、に、来き、法ぽう、日にち、を、迎むか、へ、ん、と、い、ふ、露つゆ、知し、ら、む、さ、む、し、坂さか、本もと、の、陣ちん、不ふ、小こ、木き、く、雨あめ、若わか、や
 志し、の、ん、と、思おも、ひ、小こ、案あん、法ぽう、外がい、あり、猪ぶた、利り、を、得え、て、將しょう、率そつ、こ、も、小こ、急いそ、な、く、堪た、
 樂らく、法ぽう、春はる、小こ、會かい、事じ、と、信長のぶなが、表ひょう、悦えつ、う、び、ら、り、な、れ、ば、諸しよ、古こ、も、計はかり、ら、れ、た、は、い、と、ん、

よれまありとぞ賀し奉る。備又本下秀吉の志奉坂本と遷陣し
 てより横山城を固く守り。軍事小油野をさびこそた小右浅井
 船倉が和采を自己と破きしと計謀を遠らしむるが。然小佐和山
 の城を磯野丹波守貞正の使より浅井を疎んと。織田家小降系乃
 りら得へるを。本下禎之察詰し。ろまの渠を登り降りしめ。虎小
 継之諸城の將士を類屬んと。二丈を案下也。情小丹羽。許小
 列を磯野小降系をさび計謀を。會めたる小。長秀頼小使
 者と仕を磯野が許へ謂遣也。浅井船倉と織田法之家令の和
 らのふまは。遠响せりて。赤色小も。信長法方。隨後中。他人の難
 判。あつらむ。信長頼之。是下法武勇を感賞し。只顧追慕せむ
 うらま。織田家小帰依し。至よ。信長公方家。許へ。あつらむ。

赤直系小を。げん事あり。使赤思案を。皮せらむ。中。會し。遣し。けら
 小より。丹波守も。近來。既小。織田家へ。帰依の。心立。由へ。禎之。長秀小
 喜信と。通し。懇ありし。中。あつらむ。こ。色。と。美。諾。ひ。也。系。さ。ら。む。
 げん義。せり。て。只。顧。特。之。容。々。る。小。ぞ。計。畧。熟。し。り。て。本。下。自。ら
 波守小。列を。謀。法。始。終。を。言。情。之。磯。野。を。直。系。中。る。む。さ。音。筒
 換。く。小。命。屬。ら。む。然。る。と。遂。一。小。演。々。由。信。長。頼。小。諾。心。し。こ
 ま。ひ。使。者。を。り。つ。て。百。々。を。補。へ。遣。り。さ。む。孫。吉。郎。が。面。せ。し。像。く。丹
 波。守。へ。會。し。所。と。長。秀。へ。赤。下。禎。有。る。こ。も。小。より。て。五。弟。左。衛。門。三。郎
 從。者。も。四。五。人。を。引。率。て。佐。和。山。の。城。小。趣。き。磯。野。員。正。小。對。面
 せ。し。長。秀。會。し。出。る。や。先。達。而。り。足。下。の。實。義。と。ま。し。信。長
 小。達。一。置。遠。般。い。ち。く。帰。依。の。義。會。遣。し。る。小。信。長。感。悦。斜。め。り。

磯野の丹波守
佐和山の丹羽を
高島の城を
赴く



豊臣口編



豊臣口編

公方家へ言状し別所直冬小加へらるべき事調あり能く當城
 佐和山の淺井の属城ありは是下一度公方家の別所直冬
 うへ當城の在番然るべきをこそ小より公方家より別所直冬
 を下へかうき西近江高嶋の城主小補せられ至ふ是別所直冬
 の志已みり主人信長公方家の別所直冬を奉り奉り別所直冬
 下へ置きとらると信長は書付せ有出へ探しする小を員正
 強んで改載し雀躍とるべきを亦日來の心を脱小是
 遠上へ余小隨ひる鴨へ趣くべしは當城は是下小波し
 已て同く如月木四日丹波の言嶋城へ移りしより長秀この
 城を交えて波阜へ委細小言状しこれ信長殊小喜悅ありと
 ち佐和山の城今之産根小立万貫の石を相添丹羽長秀小
 賜ふそ外大尾の城を中濃惣たつ小若へ還り別所直冬
 庄駿河の丹羽小乾く降参と是食木下が智謀小して湯
 井小神交指言詞を破らせ堂發なせん企ありたり

秀吉救済又城大破門徒属信長出馬

佛口を能方便品を説増てや戦國の中小して虚云の方便
 みるらざらん是十悪の小して聖賢は憎む不むまとも天下の爲
 若しこれ小忠心を以て行ふ响の神佛陀も應に至ふ木下丹
 羽が謀る不念悪く的申して淺井の有城こそ不まを堂もみく
 織田方の不有とあり。後野新庄降参しは是下。浅井父子合の
 後腑も悩礼をすまを憤怒は使者を以て織田家盟約違背
 の罪とせめこそ逆言の黒白小隨ひ事と起さんと評定ぬ。先横山

の城中へ使者をつらし長政の口快せりて深させたりや。去年
 信長坂本小おろし。物詫小随ひまわらせ。朝倉浅井と和後
 へのち果変こまぬに拒言書あり。そを墨もまを乾かぬ小表裏を
 犯しと欺謀せりや。小笠原属する將佐を招き諸城を押込せら
 る事。不義背道の所為なり。所詮折衝朝の境小もなねばま
 方よりわくさぬ小軍馬を發して殺出づれを然らむして鄙怯を
 拳止ひ徳をりて礼妨する茶定で信長の指揮ならん。いづく違
 盟あり小於くはを信小當是とし。朝廷への稟譯小再が朝倉と
 合辭なり。信長法罪せれん。返答いふと謂棄し。亦个秀吉
 始終に聞て懇懇小使者をわらひ是不善にて重きを申す。命せ越り
 長政の意趣一應に理有る小似こまど。願の漸遠意の思ひさるらん

秋主人信長苟も。公方家法執權こそ。天下の政道を捨柄邪
 正を亂し職をばいさる。偽を重きを死。況や天子法物後あり。
 目の將軍の嚴命と多るをや。大丈夫の盟約泰山の像。輕
 倉深井の支家少い。輕々しく思さる。うの初ねむも。信長は
 所存小おろし。單小論旨命令を重んず。万民を慰むがへ。小
 恥を志のんで和平せり。然る小なんぞ今小及び盟を破り。礼を企
 せし類と不謂あらんや。を棄捨別法凶徒との以本願寺などの
 門徒一掃せ。征伐あり。礼をばいさる。こも。之家和平法後をば上
 方筋へ出馬せんこと。諸人の義論もいふやあらんと懸止かろく。不
 遠せりて信長の誅言なき事を察観あり。將又磯野員正この
 双方和後よりなる由への遺恨もなげき。ばとて。公方家へ忠義をばこれ

備後井家小室あらば。救はんとの心掛け申す。趣を願ひ出公方家との
の命を以て。高鳴法城をさるなり。備後和山の信長法城をりつて。さる
づまに。せ命せらる。こま小よりて城代を入置せし。不小小室小を
微野の老母を長政を道小殺害せしこと。是何とりの所謂ぞや。卓小
織田家と公方家へ解せ給ふ。面敵ならん。然るに。遠方より。こま
罪を以て。該ふこと。た右事なれば。小室をどと立。秘使小室を。不
ま。朝妻大尾の西城の守將を。退去せし。ち護り給ふ。不止事。を
得む。ちを。調量の。さる小長政使者を。遣わ。新同親小及。た。緯
秀吉更。小室。意を得。然も。長政。折書。を。破り。礼を。好ま。せ。給ふ
小おの。く。の。是。を。制。する。小方。御。は。勅。給。命。を。重ん。ぜ。を。盟。約。違。違。違
せらる。事。定めて。所。不。存。あ。つ。て。ならん。が。衆。氏。を。あ。い。ま。し。諸。卒。を。勞

至。ひ。な。ば。誓。を。守。る。に。志。く。く。を。信。長。法。城。小。お。の。て。い。を。に。し。も。味
ま。不。意。な。り。と。理。を。責。めて。返。答。し。る。ま。は。淺。井。の。使。者。も。遠。理。小。休。
再。び。發。去。る。刻。み。く。眼。裏。に。て。歸。り。長。政。小。お。と。演。説。を。こ。ま。を。所
て。備。前。守。怒。ま。ま。く。烈。し。ふ。と。渠。が。言。ハ。飽。ま。を。こ。ま。を。誰。か。なり。こ。ま
義。なら。ば。遠。方。より。目。小。の。身。を。せ。く。惱。し。ま。し。と。一。の。謀。畧。を。案。じ
出。し。石。山。お。願。寺。を。將。佐。小。侍。を。江。別。の。大。房。を。所。を。數。多。諸。ら。ひ。
その。門。徒。毎。の。勢。を。り。織。田。家。小。屬。せ。し。國。人。軍。の。諸。不。法。城。を
責。ま。を。ん。と。す。その。大。坊。を。門。を。小。の
箕。浦。の。誓。願。寺。 如。道。房 四。千。餘。人
新。庄。の。金。光。寺 長。年。房 二。千。餘。人
朽。木。の。常。願。寺 蓮。里。房 一。千。餘。人

上洛の順慶寺 五百餘人

由道木の法願寺 二千餘人

益田の真宗寺 三千餘人

唐川の起照寺 八百餘人

長澤の福田寺 四千餘人

下坂の福照寺 三千餘人

主勢 都合二百二百有餘人 會をまくの檀越せりありありあつめり

方より蜂起せし長政大少飲び競る 赤井家の長兵衛中

島日向守 赤井新七郎 野村倉庫頭と軍奉行と定められ

まが箕浦を攻陥さんと波石の佐人堀次郎が籠りしを強は

母の味小推進し頃ハ同年六月六日箕浦の折願寺を教導

者として先陣小進せり。軍小熟ぬ一揆といども。二百有餘の大

軍はもと六要崖宿元謙のみせ十卷亦卷小推捕圍息せもつが

で攻起る。塙の後見多羅尾右近樋口之助多治を御せ

して防戦せども。敵ハ雲霞小等一の大軍一刻ごと小入替せど。自

軍ハ僅五百餘人拒抗方術もや竭て既小危くりたり。這

駒木小秀吉の謙のみは落城せしうち。後援せさんとありども生

怕横山の城中小後等二十をうりまは。二方有餘人の敵前へをせ

向ふ事難しとありども。救をせんが叶ふまじと二百餘人の城を守

らせ道公撰つて八百餘人謙はみ當て殺出たりが公士小向ふて東

さるやう。敵ハ大勢さんぬまども。仁民武士の類ふく。大將分ハ塙

より軍は進退全うを返前さん事察する。被誡とてもなり

らん小唯横合より不意を設て勇小信せし。跳散まへ。先旗さし
 りたり。神標まで愈々懸くこりて。一揆加勢の体小のて。油
 断なきを途く馳より。一時小志はしを推して。進も退も我小志
 小寸分遠ふ事なれと志めされ。小ぞ是原末木下かつら。公士
 むらひ。子足の像くあり。幸う指揮小違ふ。申小も如福福
 崎所桐堀尾輝次賀の面く。鬼とも相づき。糧悍ある。今公
 一揆の如原を慶小なさん。どの。と探小探で。馳せたり。備ま
 一揆は二万余人の隙のむ。城の八面を福麻竹葦と捕圍。城
 中免や陥ぬ。奮ひこりて見へ。本下は勢八百余人。隙
 正とく推進。ま馬標を推立。と下禱とる。志と。併小。色
 の吹貫。懸當。憾千生。飄の馬標。と正先小。視と推立。織田

の勇は日本一の功の者。本下孫吉。秀吉が當城の後援あり。
 と又。勇小。呼より。是後の公士と。繞め。勵ま。其浦。松。頭
 寺が備へ。四万余人の最中へ。島地小。近。迫。申小も。如。孫
 虎之助八十文字の槍を推搦。縦横。を。得小。馳。將。ま。充
 黨。つ。り。本。村。又。藏。虎。之。助。が。馬。前。小。あ。り。て。近。づ。く。敵。を。破。伏
 逃。例。し。主。従。こ。も。小。龍。虎。の。威。を。り。異。器。小。あ。ま。り。て。敵。將。り。瞬。く
 隙。一。揆。軍。を。火。四。五。人。破。伏。と。ま。バ。近。よ。る。敵。一。人。も。な。り。ま。り。こ
 福。回。寺。が。四。千。余。人。も。福。崎。堀。尾。小。破。起。ら。れ。右。願。左。倒。は。破。崩。し。
 多。ま。後。援。小。む。し。福。照。寺。が。三。千。余。人。入。留。り。て。只。一。揆。小。進。願。
 秀。吉。程。も。答。を。勵。ま。し。本。宗。寺。が。三。千。余。人。小。舍。取。も。な。く。破。て。蒐
 る。な。り。久。は。是。小。敵。す。べ。た。一。兩。場。小。又。同。く。群。雀。の。集。會。小。進。つ。る。



木下きのしたの八百餘よち騎
 門徒かど勢せの二万ふたまい
 餘人よちひとを
 坂本さかもと
 の濱はまへ
 追お換かも



備くを二無と小致起るるが遠駒原の母は城中も木下が
 救ひ小臂力を得る。多羅尾樋口所敵く出前後と包んで烈
 戦しなまば二万余人と所了も。越々小ありて礼動し。惣前まこと
 りりて敗走を木下控も小群を寛めを退さく。破捲るに
 門徒の一撥途を失ひ坂本境の湖面へ員を召して退稠を
 溺死をるの経後。木下勢のやこますと提喊おげて退返をを
 拵ひの四天の名は。終羅軍卒を破るが像く。壁を小又の法よりん
 初て孫吉郎秀吉の殿捕所を敵もを波卓へ饒らんと敵せが
 原東一撥ありたる也。河實檢中も及ぶまじ。耳鼻をりてまじしと
 使者小りせと波卓城へ提軍。其事を言上り。これ信長を

所しぬこま木下が軍功を大小賞美し。門徒一撥の強動を
 是長政の催し。りし不なまば。淺井軍を解るる人。遠方より出
 馬やせんと命出さるるを木下秀吉令姑く。河見合あり
 然るべしと練止りたる小詮方なり。江列散向を止らまじ。小尾列
 の境あり。長宗の一撥とも去来坂本の對陣のまじり。織田彦七郎
 を殺りたる也。いと憐れませ玉ひたるが。遠節。研余力あまば長宗
 境小出馬なり。石山一撥は輩を誅伐せよ。と思し。達同二年
 五月十日。五万余人を引率せり。まをせをちて。之道より。續々こして
 推ある申道通の丈將ハ佐久間右衛門尉信盛山田之丸車。津田
 市之丞長宗。丹波守。和田新助。中寄。豊後守。一万余人。西
 兵濃多。海口より。長宗へ進る大將。柴田。終理進。務家。安徳

今更なる
通ぬるに
石垣より
清くても
清くても

へ三四の海
西にあり
村あり
ありあり
ありあり

伊賀守。稲妻。伊豫守。氏家。全市。堀。九。舟。左。馬。飯。沼。劫。平。素。原。土。
佐。守。堀。本。内。堀。九。毛。倉。庫。頭。不。破。河。内。守。伊。二。万。余。騎。あり。大。將。
信。長。の。新。旗。本。の。精。兵。撰。て。二。万。余。騎。當。日。ハ。三。回。渡。り。出。渡。せ。
ら。ま。し。て。放。火。し。長。崎。前。後。の。地。理。を。精。く。測。覽。あり。る。小。を。双。
の。要。處。あり。る。を。大。勢。小。て。指。籠。り。列。伍。嚴。重。あり。る。こ。こ。を。せ。
を。休。小。攻。ん。と。自。軍。も。若。干。接。亡。を。べ。し。ま。づ。這。般。ハ。帰。陣。し。て。再。び。
軍。馬。を。渡。さ。ん。と。退。去。し。趣。を。徇。ら。ま。し。然。れ。ど。に。長。崎。の。城。を。預。
部。左。衛。門。尉。の。信。長。出。馬。と。所。り。も。近。々。を。在。の。門。徒。を。詔。ら。ひ。雲。龍。
の。如。く。屯。集。し。て。防。戦。の。準。備。急。り。ま。し。奇。兵。を。取。り。小。埋。伏。させ。信。長。
を。殺。ん。と。計。り。ま。し。小。登。り。も。款。計。策。を。察。し。至。り。て。新。歸。陣。あり。中。
道。通。の。佐。久。間。伊。一。万。余。騎。ハ。道。中。歇。ま。り。兵。濃。詰。入。小。を。退。く。

敵さとの愛ひもなく。波草城當て退く一ぬ

毛受庄助棄逆勝家馬標 厲 扑全戦殞

義ありて勇なき者ハ從來小勝瀆を勇ありて智なきものハ進退
うならむ猶縁の心あり。後小信長の智勇兼備の天將なき。款の計策
小臨らむ早くも退陣せらま。茲小多麻口より推去る。柴田倅が
二万余騎ハ倉極勇の志なき。款陣際近く推進し。軍使來
りて退去し。音を徇知らざる。小うも警覺。直地小退去。準備し。ま。づ。
款を速くも。其を殺せ。視賺し。退敵せん。と。わ。り。ま。し。後。陣。を。定。て。退。き。
ら。ま。し。身。一。の。敵。近。ハ。柴。田。修。理。進。衛。尉。二。番。ハ。安。藤。伊。賀。守。等。こ。
番。ハ。氏。家。ト。全。り。并。小。柴。田。が。卷。子。こ。る。伊。賀。守。伊。賀。守。等。こ。
の大將敵駈し。緩く退くと退く。一。退。く。一。退。く。長。崎。門。徒。大。勢。小。を。退。く。

来り柴田が隊伍小會着道を由じこぞ擡起る。徳家原來武を功者
の勇將を以て隊伍を固めて礮臺も發を吹拂ひく。追來る敵を
たらひを諸將を四五町曳揚ぐ。仕度せりと思ふ所小門徳は一揆
頑てより。計り得けし一隊小や。四五十艘の早船を推さく。大田川を流
小進みて絶より。弓馬銃を亦さく。横合より擡起る。漬よりも門
徳の奴原大燦一隊小群り薙り。隊伍を棄てて攻てたる小を柴田
が急率大小銃を引候。炮小うも崩されし人員死人員を既小改軍
と見入るるれば。修理進勝家。そぞ一世の大事あり。とらうと槍を推
投く。うづまく敵中へ擡て投勇極う。小血戦。たるが撃出を決炮の
急率敵の如く。隙隙あせす。飛來りしが。徳家が股小當りたるは幸
痛頻りなり。とらひも。強て見せたる自軍の勢。惣たれ小もあらんと

そきて怖きて鞍が根小いしく。堪へて士卒を勵まし。稍亦丁ど退れり
が。いづれも一隊徳家が。金沢新幣の馬標を一揆の益士小棄たる。中
小も山口を係を又とり。りの大嶮不敵の野武士あり。彼馬印を言
さしとげ。織田家の勇士と。呼をまき。鬼柴田徳家の如く。降参
志す。残るはとも會階小降をやらせ。と。呼をうて。吐と一隊小笑ひ。れ
徳家大少驚れ怒り。形馬印を棄たる。何面目小退くべ。投返さ
むんばあぶらぐ。とあせす。小隨ひを銃。此れよく。痛を費さし。小身
も。ご自由あり。と。既小馬より落んと。と。老黨頻小諫止し。この
來。退去し。と。多と。割を。徳家眼を怒り。こ。是。歳。度。と。た。合。戦
小。罪。義。の。激。怒。を。ひ。と。い。ど。も。今。日。の。如。く。自。軍。を。換。す。名。も。な。き
一。揆。の。奴。軍。小。追。殺。せ。り。朽。憾。さ。そ。き。と。あ。る。に。馬。印。を。棄。れ



毛受庄助
敵中不投
御幣の
馬標
捉返す



豊臣記四編卷之二

この陣の念を遠東退の後付まで汚名の雪事わらじ。
備馬標を捉返さざんが戦死も退くまじと甘八小助もさう
り怒り叫んで進まんとを遠と死柴田の庵後らも毛受庄助照
系といふは生年積りて十七歳傑氣を双の少年もじが突
と走よりて稟をさう。切洲心を勞し玉ふる彼馬標を捉返さんとて
大將の進ませるも一匹小あふを遠事ハ某小任せもへを事小捉
返し稟さん小と謂弁て捉返し。覺を脱捨神平とらなり業
大童小ありて強敵を門徒一撥ハ大勢少く。彼も強を是の
がし小正先小を推来ると毛受庄助照系ハ一撥はさすまされ
こそ山口孫次小近づれ只一撥小きり倒し。馬強をかつり返し。
右手小大太刀より拵し。退く奴輩を砍伏難を或ハ脱殺し

陣の小と露塵の雲を破る如く是を涯り小純屬を彼馬強を首
軍の陣ハ強徒捉と抱捕際近く退来る敵を近きとせんと
只単務進足不仕の敵中ハ一喝叫んで切て投前後小よりつく
一撥軍を一刀ハ浪立返とを。瞬際小敵陣ハ十五をう露塵の
勢小門徒軍進高の勢ハ一個もなき。あがりあがけて身入らうるを猪
家の下穉とて井と久八中村興庄助を殺し返すと殺
十騎一撥小捉返し。毛受を救うて戦ふ所ハ安後伊賀也
範後強を率く切て投一撥軍を退殺し。柴田が急を退けるが
庄助も。事小道出自軍の陣ハ退返を猪家ハ余りの強ハ小
庄助が掌を挽く。感激殺行流と謂ゆ。は弱事ありとのいふも
謀といひ勇猛といひ實小なり。死勇士あり。忠信ハ途小敵中ハ強

投馬強を棄てて我大恥辱を蒙り事功をいそぐ至忠と
 いそぐ事功をいそぐと感悦をてきりしが徳家の一字を附ふ
 毛受之法助宗照とぞ名を蒙りせたる然る小安孫伊賀守ハ柴田が
 跡を清和で後殿とあり退去を門徒の一揆属慕ひおめれさ
 らんで退去せしと乾後自燃小烈々々下穢々々勇を奮ふて戦ハ法
 休を死一揆軍當り小と云々散礼を授けの跡は退けと謂間もあ
 せむ影雲の一揆雲霞後法像々起り立家動なりて退去する安孫
 の老黨福田左と今枝源左并旋風の如く小提く退く想烈々々
 てぞ血戦を伊賀守も云士と勵ましとつらう澁を推して一歩ハ退ひ
 退く一歩ハ退き一二町ふたの退きとるが地理分岐の一揆軍とじとる
 馳出く遶りたる小安孫勢主従とも小勇を果然小勢の隊伍を

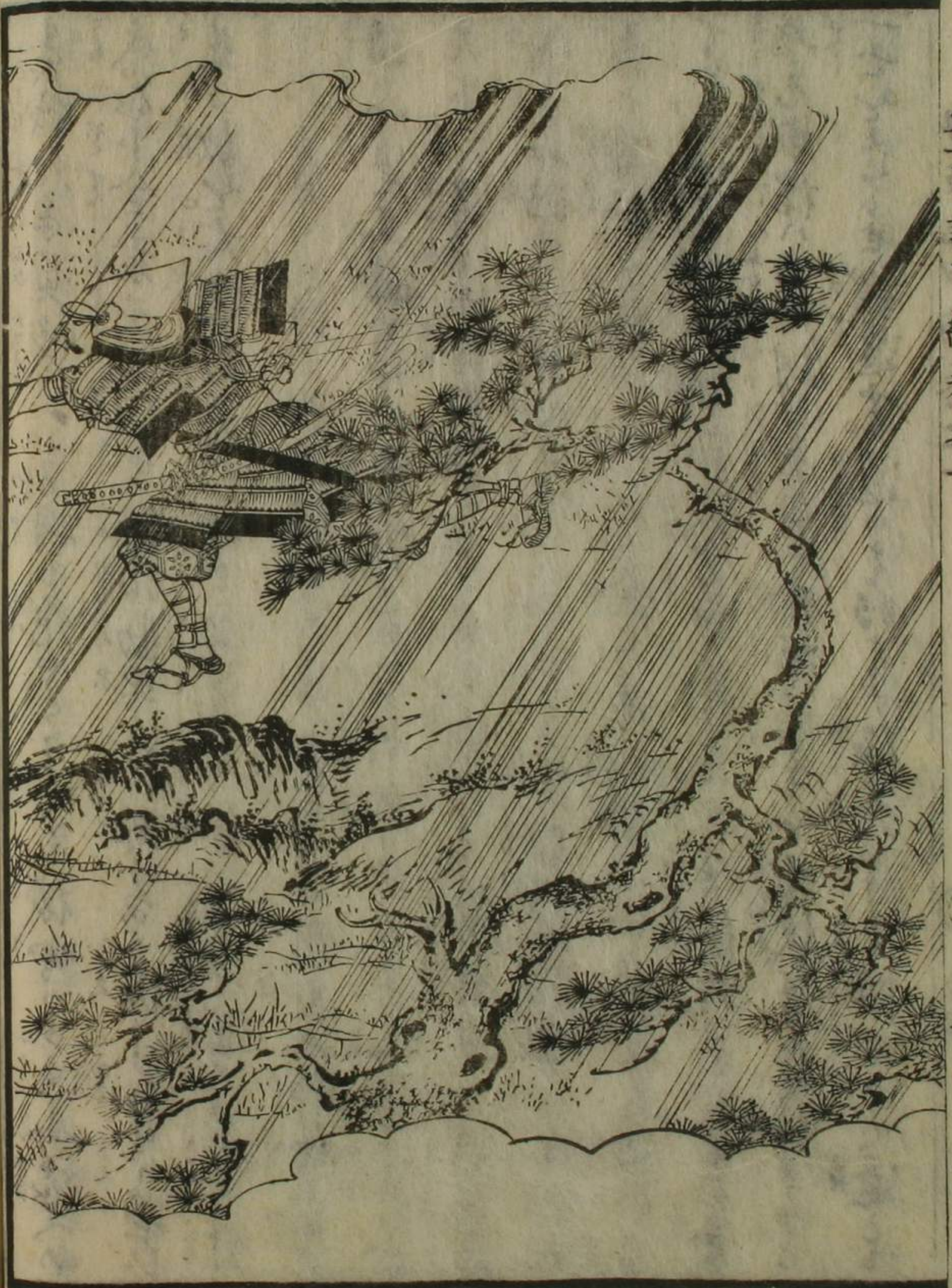
是ハ戦死手負懐くを將も危やと云々機舎うらふ之番隊ハ
 氏家ト全素系土佐也飯沼助平と一隊小あり退く合せて退ひ
 来る款と右崩左崩小吹まう安孫勢を先小多て軍道計
 退り一日も西海小傾く機舎うら大兩顔り小降中一野路を
 清く中々馬蹄もいそ危ふまの歩行殆ととるを左右小勇
 左と右黒白も分ぬ存とありまは退口いそ難危あり門徒一揆ハ
 得たりや法うらと林間叢裡の閑道と生ハ一揆援織田勢の
 勇と會止る不得の氏家ト全も遠形勢小あきれをて遠傳小
 への自陣の兵士艱難大方ありとて大軍戦死をばはは幸
 九毛市橋ハ右田村七を委小陣取とるやと所使をりて特まん
 一士とまらせ謂遣り退口を所を難危ありそ陣取をて退く



御前書下巻之十一

十八

氏家朴全
太田村
戦死す



御前書下巻之十一

べまきバ。河加勢時むと謂贈るを丸毛市橋こまきと諾し。加勢のよし
 返答をよくとち田を志し。素原飯沼讀を揮す。戦は際小全
 大田村まで退来り。市橋丸毛が陣小投らんと心結く。純ある
 取小ここのうせし。内外より大勢一度小あめひて出氏家の名士を二入
 も。あまし。せしと推搦圍む。備へ市橋丸毛の輩。安心はこころもの
 みらんも。や一生懸命あり。死ぬやくと苦叫す。働づ起つ戦ひなり
 己ま丸毛市橋が軍あるを。大田村の住人。大田志を。讀といふもの
 小稲葉の城小有るが。多心なり。一擧と熟合。不意小全七屋敷の陣
 へ推進丸毛市橋と退ちるを。火急の要事小全を救ふ
 べ死こころなむして。遠く兵濃逃へ退去。大田志を。讀といふもの
 小全来り。六段捕とす。とも。知れ。氏家入道儀の勢。少く。外ま。来る。と

けんより得たりと大田の従卒。前後を色々。推搦。道はし。は。起
 たる。小全。合。ち。や。是。ま。を。ひ。り。と。覺。初。を。決。自。澹。を。推。搦。四。旁。八
 面。小。横。當。て。敵。兵。數。多。擲。石。を。其。の。働。な。し。る。が。而。敵。の。嚙。ひ。は。結
 て。單。生。活。馬。を。急。進。し。能。志。を。急。と。鞭。を。と。馬。蹄。踏。り。逃。入。り。自。由
 り。さ。る。と。前。を。礼。抱。り。て。赤。毛。め。られ。兼。先。づ。身。の。戦。ひ。當。れ。遂。小。戦
 死。り。し。る。と。一。擧。の。軍。首。擧。んと。群。り。あ。る。と。先。等。多。西。尾。勅。を。傷
 素原右邊。河村孫三。河村種村。助六。飯主人の首を搦はじと死候とむ
 て。血。戦。り。愈。一。回。小。戦。死。し。り。小。全。目。來。情。を。け。て。
 是。儀。謙。活。き。小。姓。あり。り。削。修。理。庵。と。い。ひ。る。が。主人。戦。死。と。有。り。あ
 後。敵。の。勢。中。より。兵。多。入。致。せ。り。大。田。村。小。旗。屬。一。擧。原。を。攻。め。し
 主人の亡骸。河村。ある。と。い。ふ。ち。あ。て。殿。ま。む。ひ。り。ゆ。や。と。浪。川。と。く。馳。通

响馬の影とらむまのかげ、声こゑ、とまば常小所別とまばじょうしょうじょべつ、一人の馬ひとりま、ある由あるよし、あるべし
 ことりちあせ一揆軍ハ退来り。段々くと近づくを正先たださきの敵を以て
 掘伏ほりふし、小飛入こひいり、下全しもぜんガ死骸しがい、小美こみと取とりをかり。悲哀ひあひ、小絶こつたをその
 まるに唯ただ、搔か、死し、とていハ哀あはれ、といふも愚おろちなり。徳とく、版い、版ね、原はら、の勇
 と奮ふる、つて戦たたか、ふ、平へい、一揆い、の大將のだいしやう、下間しもま、之位のゐ、版い、版ね、原はら、の勇
 傑たけ、氣き、強つよ、の勅しやく、采さい、を以もつ、て十合じゅうがふ、計戦けいせん、ひが遂つひ、小こ、之位のゐ、と狗いぬ、板いた、を
 上あはせ、卷まき、附つ、を突つ、徹てつ。馬ま、より逆さか、小こ、落おち、つ、不ふ、遠とほ、堀ほり、ひ小こ、幸さい、原はら、も一いち、度
 小こ、込こ、へて播は、起おこ、つ、と西にし、一揆い、をうも勝かち、得え、まじと思おも、ひ止とど、り、とらるとらる、小こ、也や、物
 尾お、村むら、といふ下しも、より。の社しゃ、別べつ、へ西にし、陣じん、も東ひがし、と西にし、へ東ひがし、をまぬ

繪本豊臣勲功記四編卷之壹 終

